

「くものいと」(関西クモ研究会機関誌), No.30, pp. 16-17 (2001年) から一部改変して転載.

クモの同定の手引き

ワシグモ科 Gnaphosidae (その3)

加 村 隆 英

テオノグモ属 *Callilepis*

ワシグモ科の諸属において、上顎後牙堤の状態には大きく分けて三つの場合があります。一つは歯がない場合、二つめは1本ないし数本のふつうの形の歯がある場合、そして、三つめは通常の歯とは異なる特殊な形の突起がある場合です。

この三つめの場合のうち、図1のような卵形の突起をもつグループがテオノグモ属です。これはとても顕著な特徴ですので、これを確認することができれば、本属のクモであることは簡単に分かります。ただし、上顎後牙堤の状態を見るためには、上顎を前のほうに持ち上げなければなりませんので、古くて硬化している標本では、観察しにくいことがあります。ちなみに、この突起の形が大工道具の手斧に似ていることが和名の由来であるようです。(なお、外国には同じ特徴をもつ別の属が知られています。)

これ以外に、テオノグモ属の特徴として、背甲の幅が他属に比べてやや広いこと(図2)、後中眼が水平方向に細長いこと(図3)、が挙げられます。また、腹部背面には図2のような白色または黄白色の斑紋があることも目立った特徴です。

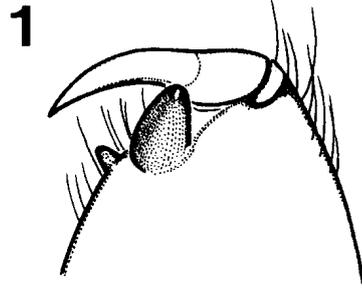
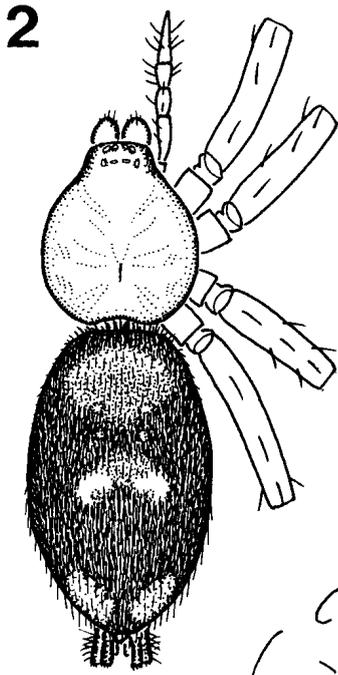
日本には2種が知られています。いずれも、旧北区に広く分布する種です。外見はよく似ていますので、正確な同定のためには、外雌器や雄の触肢を見なければなりません。

フタホシテオノグモ *Callilepis schuszeri* (Herman 1879)

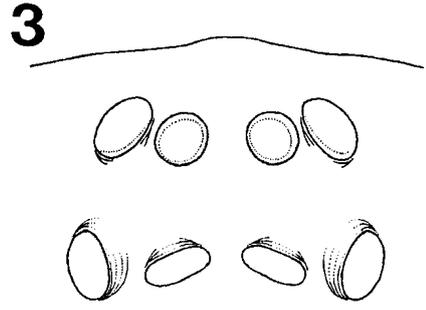
体長は♀ 4.5~7.0 mm, ♂ 3.5~5.0 mm. 背甲は暗褐色で、白色の細毛が密に、黒色の短毛が疎に生えています。腹部は黒褐色で、腹背前端に灰黄色の斑紋、中央部に1対の白斑、後端部にはやや不明瞭な白斑があります。北海道と本州に分布しています。外雌器と雄の触肢は図4-6.

マユミテオノグモ *Callilepis nocturna* (Linnaeus 1758)

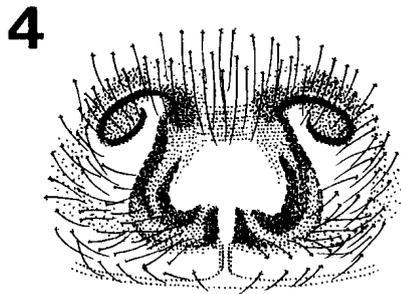
体長は♀ 4.5~5.5 mm, ♂ 3.5~5.0 mm. 全体に前種によく似ていますが、背甲を被う細毛や腹部の斑紋が黄色(金色)がかかっていて、美しいクモです。北海道に分布しています。和名は北海道在住のクモ研究者・松田まゆみさんに因むものです。外雌器と雄の触肢は図7-9.



上顎後牙堤の
卵形の突起

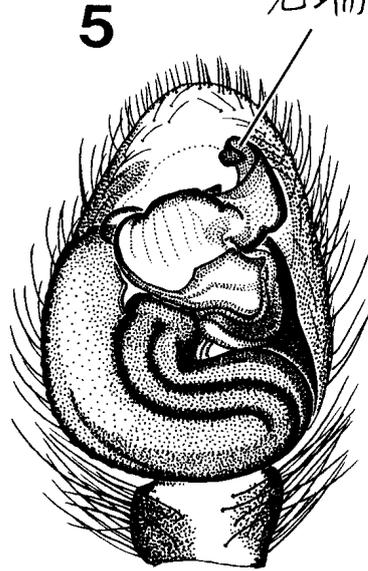


後中眼が
平べったい

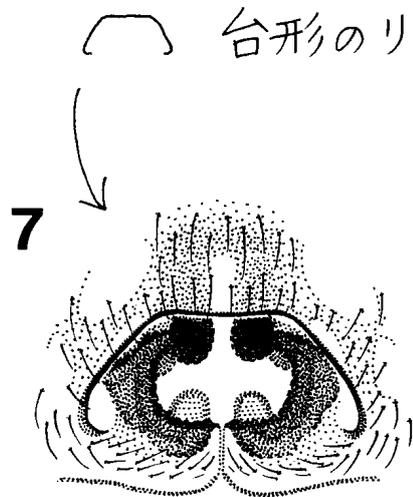
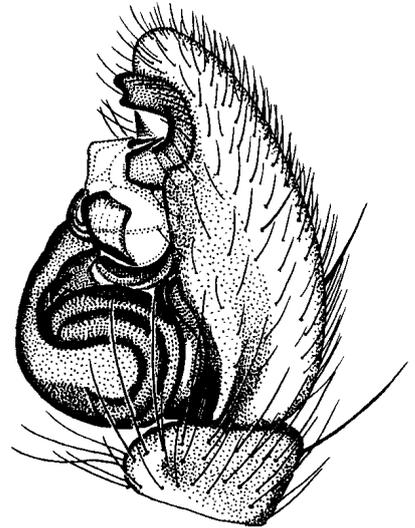


フタホシテオノグモ

こんな形
のリッジ



先端が少し曲がる



マユミテオノグモ

台形のリッジ



下向きの突起

